



## 『学習の評価』 特集号！

### 何が変わるの？

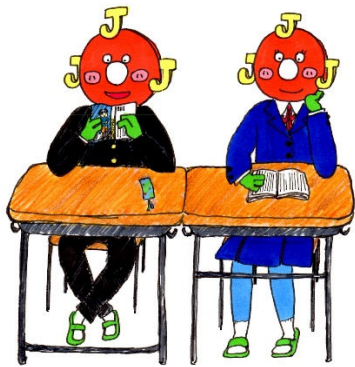
学期ごとに通知表でお知らせする学習成績は「学習指導要領」をもとにつけられています。その「学習指導要領」が改訂され、今年度から中学校で全面実施となりました。

その中で、評価において全ての教科で大きく変わった点が観点別評価の項目です。具体的には、昨年度まで4観点（国語は5観点）だったものが全ての教科で

- ① 「知識・技能」
- ② 「思考力・判断力・表現力」
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」

の3つになりました。

### 評定はどうつけるの？



まず知ってほしいのは、評価の意義です。現在の評価は、「絶対評価」といい、順位（集団の中の位置）を示すのではなく、個人が各教科の目標に達しているかを判断しているものです。ということは、皆さんが現在の目標到達度を知り、これからの学習に活かしていくために評価はあ

ります。決して、進学先（高校等）へ報告するためだけにあるものではありません。

評価の意義や絶対評価であること、そして、各教科とも、まずは上記のような観点ごとに生徒一人ずつA・B・Cで評価をすることはこれまでと変わりません。その際には、

- A： 「十分満足できる」状況と判断できるもの
- B： 「おおむね満足できる」状況と判断できるもの
- C： 「努力を要する」状況と判断できるもの

という学習指導要領で示された基準で評価をします。ここで注目してほしいのは、B評価とは、いわゆる可もなく不可もない「真ん中」の意味ではないことです。Bとはおおむね満足できる状況のことであり、学校は全員がB以上になることを目指して指導します。

また、評定「5・4・3・2・1」については、観点別評価をもとにして、

- 5： 「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
- 4： 「十分満足できる」状況と判断できるもの
- 3： 「おおむね満足できる」状況と判断できるもの
- 2： 「努力を要する」状況と判断できるもの
- 1： 「一層努力を要する」状況と判断されるもの

という基準で決めています。このことから、A・A・Aの評定は4以上となり、その中で特に程度が高いと判断される場合は5となります。なお、3観点の教科ごとの内容や評価の方法については、別紙の「各教科の観点別評価について」をご覧ください。

### 「主体的に取り組む態度」の評価はどうなるの？

次に、昨年度までの「関心・意欲・態度」から、大きく変わった「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、本校での授業スタイル「城西流協働学習」と併せて説明します。

本校では、新学習指導要領に則して生徒の資質・能力を育むため、昨年度から「城西流協働学習」と題して、グループ学習を中心とした「学び合い」学習に取り組んでいます。この「城西流協働学習」は、

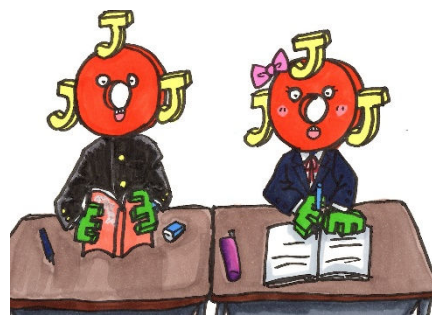
- ① 「すすんで（積極的に）仲間と学び合う。」
- ② 「粘り強く課題に向き合う。」
- ③ 「協働的に課題解決に向かう。」
- ④ 「学習方法を工夫改善しながら学ぶ。」

ことを目指す授業スタイルです。

この4つの視点こそ、新学習指導要領に評価の規準として示されている「主体的に取り組む態度」そのものです。

つまり、「すすんで」、「積極的に」、「粘り強く」、「協働的に」、「工夫して」学習に取り組んでいる生徒が、「おおむね満足できる」としてB評価以上になるということです。簡単にいうと、「城西流協働学習」にいかに参加しているかが評価の中心になります。「城西流協働学習」にしっかりと取り組み続けることで、B評価以上の成績が期待できます。

その反面、昨年度までの「関心・意欲・態度」の観点では、ギリギリB評価になることもあった（授業では頑張っていないけど）「とりあえずノートやワークを後から写して出す」「課題や作品だけは提出する」「先生や友人に声をかけられたときだけ学習する」「学習したり、しなかったりする」といった場



合は、今年度からはC評価となる可能性が高くなります。もちろんノートやワークシートの記述内容等も丁寧に評価していきますが、一番重点的に評価するのは「授業中の学習の様子」となります。

### 授業を大切にす

「授業で、仲間としっかりと学ぶ」ことで、新学習指導要領が求める資質・能力が身に着きます。これからは、「塾でやっているから、授業は頑張らなくても大丈夫…」という考えはこれまで以上に通用しません。

今回、初めての評価項目となる「主体的に学習に取り組む態度」について、学期末までにこれまでの学習への取り組みを新しい観点で見直してもらうことを目的として、学期途中の評価を（試し評価）をお子さんにお渡ししております。

授業を大切にすることは、今も昔も変わらないことですが、今年度からは、さらにそれが大切になりますので、ご家庭でも「試し評価」をご活用いただき、お子さんとよく話し合っ、授業への取り組みを今一度振り返っていただくようお願いいたします。